

令和6年8月1日

## 会報「桐の花」第101号

### — 目 次 —

桐の花第101号発行にあたって .....	1
事務局からのお知らせ .....	4
令和6年度基本方針 .....	5
～ 三浦ツエさんをしのんで ～ .....	10
手から伝わる優しさ .....	12
ツエ先生、ありがとうございました。 .....	16
桜井政太郎顕彰記念誌寄稿文（抜粋） .....	18
全国障害者スポーツ大会	
SAGA2024に向けて .....	25
第77回全国視覚障害者福祉大会 .....	27
お札が変わります .....	30
福祉協会協力金等 .....	32
編集後記 .....	33

編集発行 社会福祉法人岩手県視覚障害者福祉協会事務局

責任者 及川清隆

住所 〒020-0015

盛岡市本町通3丁目6-20 岩手県視覚障害者福社会館内

電話・FAX 019-652-7787

電話（2階） 019-629-3434

郵便振替口座 02250-4-53987

社会福祉法人岩手県視覚障害者福祉協会

※ この会報は(公財)岩手県福祉基金の助成を受けて発行しております。

## 私達が目指すもの

### ○ 視覚障がい者の自立支援

私達は、視覚障がい者の安全・安心な暮らしを支援すると共に、按摩・マッサージ・指圧、鍼、灸の職業の自立支援を目指します。

### ○ 視覚障がい者本位の生活支援

私達は、視覚障がいがある人の個々の特性を尊重し、求められる日常生活向上の支援を目指します。

### ○ 開かれた経営

私達は、企業的発想を持ち、施設利用者や地域の意見を尊重すると共に情報を開示し、公共的・公益的立場に立った、開かれた経営を目指します。

### ○ 障がい者福祉の一体化活動

私達は、視覚障がい者福祉活動を基本としながら、障がいの種別や程度を越えて、障がい者の仲間と共に障がい者福祉の活動を目指します。

### ○ 地域と共生の福祉活動

私達は、地域と連携しながら共生し、障がい当事者や地域のニーズの実現を図ると共に、掲げた活動理念の実現を目指します。

## 桐の花第101号発行にあたって

理事長・会長 及川 清隆

～ 新たな会報101号からの第一歩 ～

東北も、梅雨に入りましたが、読者の皆様にはお健やかにお過ごしでしょうか。

初めに訃報のお知らせをしなければなりません。

ご存じの方もおられるとは思いますが、4月26日に40年以上も理事として、副理事長等のご活躍をされ、会や法人の礎を築かれた三浦ツエさんが亡くなりました。享年77歳でした。

三浦ツエさんとの思い出は、たくさんありますが、何と云っても私が理事長を引き受けるかどうか自問自答しているときに、「人生は自分で決める人生もあるけれど、人に決めてもらう人生もあるんだよ。だから、及川さんがこれからの視福協を支えて行くのが私は良いと思うから、決断したほうが良いよ。」という言葉が強く印象に残っています。もう一つ忘れられないのは、東日本大震災の時に、旦那様の輝夫さんのお力添えで被災地を巡ったことでした。貴重な人材を失い、残念でなりません。謹んでお悔やみ申し上げます。

さて、新年度も3か月が過ぎてしまいました。

5月の第1回理事会と6月の定時評議員会が終わり、令和5年度の締めくくりが終わりました。これも、会員や役職員のお陰様によるものであり、感謝申し上げます。

組織というものは、常に新風を入れるとともに、年度年度の新しい目標を立てていかなければ、活力を失っていきます。そういう意味では、常に前年度の検証と反省に基づき、新たな目標を立てて行くことが法人運営や事業運営に最も大切な事と受け止めております。

私は、今年度中にどうしてもしておかなければならないことが、二つあると考えております。その一つが、法人運営や事業運営の事務業務の効率化です。少ない職員で、どのような業務分担をして、効率的に事務業務を遂行するかです。新しい年度を迎えるまでに、新たな業務体制でスタートができるように役職員の意見を聞きながら、適材適所の職員配置を進めていきます。

二つ目は、当会の福祉活動のため、関係団体との情報共有化です。現在、デジタルで各方面から、日々洪水のように情報が届きます。そうした情報をどう整理し、活用して行くかです。な

なんとなく分かってはいても、この二つの課題の具体化は容易いことではないと感じています。しかし、当会や法人を発展的に捉えるなら、乗り越えて行かねばなりません。

次に、嬉しいお知らせを二ついたします。

一つ目は、副理事長の金野守さんが第77回全国視覚障害者福祉大会熊本大会において、日本視覚障害者団体連合から青い鳥賞を贈られました。金野理事は、現在の理事の中では最古参の理事です。法人運営やグランドソフトボールなど、視覚障害者の福祉向上に多大な尽力をされております。おめでとうございます。皆様と共に喜びを分かち合いたいと思います。

二つ目は、5月26日に開催された東北北海道グランドソフトボール地区予選大会岩手大会で、岩手チームが6年ぶりに優勝しました(別紙掲載の全国障害者スポーツ大会 saga2024をご覧ください)。

これから、梅雨本番になります。皆様には、体調にご留意されて、健康で、お盆休暇を迎えられますようご祈念申し上げます。

結びに、この会報も、101号という新たなスタートとなりました。

今後は、読者の声を聴きながら、愛読される会報になるよう、役員職員努力して参りますので、ご意見などお寄せください。

## 事務局からのお知らせ

今年は、全国的に梅雨入りが遅れ、東北北部は6月23日に「梅雨入りしたと思われる」とのニュースが流れました。平年より8日遅く、昨年より14日遅い梅雨入りとなりました。各地で水不足も心配されていたところでしたが、これでひと安心というところでしょうか。しかしながら、これから短期集中型の長雨も心配になりますね。豪雨災害に注意を払いながら、すぐそこまで来ている猛暑も頑張って乗り切っていきましよう。

### ★7月の主な行事

7日(日)から8日(月) 東鍼連岩手大会(花巻)

12日(木)から13日(金) 同行援護従業者養成研修(応用課程)

21日(日) 支部長委員会①

24日(水) 盛岡市指導監査

27日(土) 東北視覚障害者団体連合第2回役員会

### ★8月の主な行事

4日(日) 岩手県視覚障害者福祉大会、盛岡盲人ホーム・岩手マッサージセンター開所60周年記念式典(盛岡市総合福祉センター)

13日(水)から16日(金) 事務局夏季休業

## 令和6年度基本方針

### はじめに

当協会では、組織のコンプライアンスおよびガバナンスの向上のため、役職員研修を重ね視覚障害者の障害特性への理解と円滑な法人運営に努めてまいりました。

本年度は岩手マッサージセンター事業所が60周年を迎えます。このすばらしい節目を記念して式典等を開催し、これまで

支えてくださった方々への感謝と更なる発展を誓う機会としたいと考えております。

また、第23回全国障害者スポーツ大会グランドソフトボール競技北海道東北地区予選大会岩手大会を5月に主催する予定となっています。

令和6年度の事業運営についてですが、令和2年に24時間テレビから寄贈された福祉車両を活用して、通所者の移動支援を図るとともに、希望する団体等に車両の貸し出しをして、社会自立や社会参加を推進してまいります。

当面の課題としましては、在職中に視力の低下や失明に見舞われて、やむを得ず退職してしまうケースが散見されることから、当法人が退職前に相談に乗ることで、合理的配慮の提供や専門機関への紹介など、当事者がいつまでも勤められるように支援を行っていきたいと考えております。また、日常生活のあらゆる場面にあるタッチパネルは、視覚障害者にとってバリアとなっています。私たちは、全国の仲間と共に福祉大会等を通じて社会に訴え、視覚障害者が使えないタッチパネルの放置は差別と捉えて、その課題解決に向けて努めてまいります。

## I 岩手マッサージセンター開所60周年式典

昭和39年4月に開所した盛岡盲人ホームは、今年で開所 60周年となります。そこで通所者、職員、関係者一同が会して開所60周年記念式典を開催します。

## II ICTと視覚障害者

福祉大会などオンライン開催が増え、日常生活においてもキャッシュレス化や様々な申請や届出のオンライン申請が増えてきています。身近なところではスーパーやコンビニではセルフレジが増えてきて、視覚障害者が単独で会計をするのが困難になってきています。また、2024年12月には紙の健康保険証の廃止が閣議決定され、今後はマイナ保険証へ一本化となります。我々の日常生活上欠かせなくなっているスマホなどの操作方法も多様化しつつあり、会員同士の情報交換と研修の機会が必要です。

## III 地域間格差と生活のしづらさ

昨今の物価高騰、食料品や光熱費の値上げの波は止まりません。白杖や点字用紙、拡大読書器なども値上がりしています。

そこで、国や地方自治体に早急に日常生活用具の給付額の見直しを要望していかなければなりません。

また、移動に不可欠な公共交通機関であるバス路線が各地で廃線、減便されて、生活のしづらさに追い打ちをかけています。寄贈された福祉車両について運行計画を立て、マッサージセンターなどの通所者の安全な移動と社会自立のために活用してまいります。

#### IV 視覚障害者の社会自立と就労

令和2年度より始まった「雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業」の支援については、まだまだ十分にサービス提供されているとは言えません。

特別事業について行政や雇用主との情報共有を進めながら、一般就労している視覚障害者が視力の低下や、失明を理由に退職に追い込まれることのないように、支援してまいります。

以下の五つの理念を基本としながら令和6年度の基本方針とします。

**【五つの理念】**

- 1 視覚障害者の自立支援
- 2 視覚障害者本位の生活支援
- 3 開かれた経営
- 4 障害者福祉の一体化活動
- 5 地域と共生の福祉活動

**【基本方針】**

- 1 岩手マッサージセンター、同行援護事業、日中一時支援事業および社会参加促進事業等の運営
- 2 岩手マッサージセンター開所60周年記念式典の開催
- 3 第23回全国障害者スポーツ大会グランドソフトボール競技北海道東北地区予選大会岩手大会の主催
- 4 ICT研修会の実施
- 5 支部活動支援・青年部および女性部活動への支援
- 6 弱視者への支援およびロービジョンネットワークへの協力

- 7 移動支援環境の整備および視覚障害者福祉サービスの  
地域間格差の解消への取り組み
- 8 災害時の視覚障害者への対応
- 9 あはき師の就労支援及び無資格施術への注意喚起活  
動
- 10 岩手県視覚障害者団体連絡協議会活動への協力
- 11 日視連・東視連等、関係団体との連携と、相互理解の  
推進
- 12 情報発信の強化

～ 三浦 ツエ さんをしのんで ～

令和6年4月26日、当協会にて長きにわたり理事等の役員を勤めていただいた三浦ツエさんがご逝去されました。三浦ツエさんのたくさんの功績に感謝し、謹んで哀悼の意を表します。

三浦ツエさんを偲び、関係の方よりご寄稿をいただきました。ありがとうございました。平成29年2月1日発行の「桜井政太郎

顕彰記念誌」に、三浦ツエさんが寄稿された「拝啓 敬愛する桜井政太郎先生」(一部抜粋)とともに掲載いたします。

#### 視福協での略歴(周年記念誌より)

「50周年記念誌」の歴代の理事一覧に氏名の掲載があります。「60周年記念誌」には、平成12年～平成22年:理事と、「70周年記念誌」には、平成7年～平成28年:女性部長、平成23年～平成28年:理事、平成29年～平成30年:相談役と、掲載されています。

(令和6年4月29日に執り行われた火葬の際に配られた喪主挨拶状)

#### 「ありがとう」～心からの感謝を込めて～

責任感が強く、気丈な妻でした。世話好きな一面あり、朗らかな笑顔が似合っていた妻。盲学校実習教諭として多くの生徒を指導しながら、家庭を支えてくれた妻に、感謝の想いは尽きません。

在りし日を偲べば、妻と二人で海外旅行に行った際の楽しか

った思い出や、高崎市に嫁いだ一人娘のことを想う姿が、今も  
瞼に浮かびます。

まだまだ共に過ごしたかったと、訪れた別れに寂しさが募りま  
すが、今はただ、涙より溢れる感謝の気持ちで旅立つその背を  
見送りたいと存じます。

妻 三浦 ツエは令和6年4月26日、享年77歳にて静かに  
生涯をとじました。

お世話になった皆様へ、生前のご厚情に深く感謝を申し上げ  
ます。

本日はご多用の中ご会葬頂き誠にありがとうございました。

喪主 三浦 輝夫

手から伝わるやさしさ

千葉県在住 平野由樹子

ツエ先生。

あの優しい声、少し早いような、寂しくなります。

心よりご冥福をお祈りいたします。

沢山のご指導くださいました。また同窓会や視福協の活動では何か分からないことはツエ先生に聞けば間違いないと頼りっぱなしでした。感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

何からお話したら良いか整理がつかないでおりますが、盲学校で実技を教わった事、追悼文といえるか分かりませんが私にとって財産であり良き思い出でもありますので書いてみようと思います。

白衣姿と言えば病院、お医者さん、看護師さん、治療、入院、手術、どうしても痛い、怖いイメージがありました。もちろん優しく接してくれて励まされ、元気になり回復の手助けをして頂く。眩しい白衣姿に憧れと感謝の気持ちもあります。

私は18歳の頃視覚障害になり後に盲学校専攻科に入学しました。専門知識と技術を学ぶための学校、寄宿舍生活。医療系の学科と実技、慣れるまで不安でしかなかった私は実技の時間、白衣姿の小柄でいつも穏やかな女性の先生がいてくれる事で安心して取り組む事ができました。まだ糊のついた折り目の

残る白衣、私が着ると借り物みたい。ああいう風にカッコよく着られるようになるのかな。

一年生の按摩実技の時間、きっと凝っているだろうと渾身の力を込めて揉みました。ツエ先生、座位で腰部脊柱起立筋の母指輪状揉捏は指がカクンとなりますと言いました。汗ポタポタ、畳の香りがする、額が畳にくっつきそう、上体を下げて揉む。力を入れたつもりでも中々合格とはならず、次こそはという思いが次、次、次と重なり、それが少しずつ力になっていったのだと思います。ちりも積もれば山となる。

山と言えば視福協の登山教室、何度か参加させて頂きました。登りは本当にしんどかった。技術はようやく登り口でしょうか、何合目か途中ででしょうか、経路も様々ですね。

ツエ先生はなんで、なんですぐその凝った所に指がピンポイントではまるのでしょうか、時に鍼刺激のように刺さるのでしょうか、私そんなに肩が凝っているとは気が付きませんでした。温かいやわらかい手の心地よい刺激。これは尊敬の意味ですが失礼をお許してください。ツエ先生、表情ひとつ変えず涼しい顔で

さらっと揉んでいるように見えました。でもそれは私の何もわかっていない考えなのだと。

釜石線に乗り盛岡へ向かう、左側に見慣れた景色、仙人峠のトンネルを抜けると真っ白、遠野、南部曲がり屋、囲炉裏、鉄瓶の湯が湧く、おかつぱ少女座敷童子、背中に温もり、刺激、まぶた閉じれば想像の世界、どんとはれ、チャイム、畳の部屋、真っ白、あれ雪、あ、白衣か、ただいま4時間目か。

ツエ先生が民話を聞かせてくださいました。秘かに私の大好きな按摩の時間。

職員になってからも按摩実技を担当したいと希望し、その願いが叶い担当させて頂きました。

山のようにも谷のようにも見えるけれどならば基準線に、デコボコが気になり喜んだり嘆いたり、怒(ど) 喜(き) 思(し) 憂(ゆう) 驚(きょう)、身体の心の様子が波、凧、東洋医学の陰陽五行論、人をみるときは木を見るのではなく森を見よ、全体として山のように、山のように。

ツエ先生、時々忘れかけてしまう事もありますが、本当に大切な事を教えてくださいました。

また会いましょうねという優しい声が聞こえるような気がいたします。

いつか 白い雲をはっきりと見下ろせるような所でまたお会いしたいな。

ツエ先生、ありがとうございました。

理事 成田優子

私がツエ先生と初めてお会いしたのは私が岩手に転居してきた平成12年でしたね。

最初は岩手や東北の福祉大会の誘導のお手伝いなどでお会いする程度で、あまりたくさんお話しする機会もなかったのですが、盲学校の文化祭や視福協の行事などでお会いする度に先生のほうから「優子さん！」といつも明るく声をかけていただいていたとても嬉しかったです。

そして平成23年から始めた日中一時支援事業「ジャンプの

家」の指導員にと声をかけてくださったのもツエ先生でしたね。先生の「熱心なお誘いの言葉」はその後の視福協理事、そして女性部長のときも健在で、私はツエ先生から理事も女性部長も引き継いで現在に至っていますよ。

ツエ先生、日視連の全国女性協大会に参加するたびに全国の女性部長さんたちとツエ先生の話題で盛り上がるんですよ。

覚えていますか。ツエ先生が「ほら、優子さん！外交に行くわよ！」と言って私を連れて懇親会の各テーブルを回って「次に岩手の部長さんになる人よ」とみなさんに紹介してくれたときのこと。

おかげで東北の部長さんたちはもちろん全国のどの部長さんもすぐに仲間に入れてくれていまでは私は女性協の常任委員をしているんですよ。

「ジャンプの家」の行事で日帰り温泉に行ってクイズ大会で盛り上がったときも、輝夫先生のギターに合わせてみんなで合唱したときも、こっそり理療科の先生たちの飲み会にお邪魔したときも、私の思い出の中のツエ先生はいつも笑っていて明るくて優しく声をかけてくれます。

いま私が岩手の視福協や東北の仲間たち、そして全国の女性部長さんたちとつながっていただけるのはツエ先生のおかげです。

先生、ときどきはそちらで桜井先生や根反先生、そしてほんとなときどきでいいのでうちの夫と一緒に私たちをいつまでも見守っていてくださいね。

### 桜井政太郎顕彰記念誌寄稿文(抜粋)

(平成29年2月1日発行の「桜井政太郎顕彰記念誌」に寄稿された「拝啓 敬愛する桜井政太郎先生」から、一部抜粋)

三浦 ツエ

私は昭和39年、中学校卒業と同時にある眼病に侵され、強度の弱視となったのでした。中学の同級生たちの真新しい高校の制服姿を見るにつけ、自分も、どこでもいいから学校と名の付くところに入りたいと強く思っていたのです。そのうち、盛岡の盲学校を知り、昭和40年4月、晴れて高等部に入学したのでし

た。

ですから、先生とは以来50年のお付き合いということになる  
んですね。最初は生徒として、その後は学校や視福協の同僚  
のはしくれとして、ほんとに長い間お世話をいただきました。

盲学校という所は、今まで過ごしてきた学校とはだいぶ勝手  
は違うけれども、寄宿舍という所の生活も楽しいものでした。寄  
宿舍では、年頃の女学生が毎日あれやこれやと話に花を咲か  
せましたが、とりわけ、いつも話題に上るのは、当時20代の好  
青年教師、桜井政太郎先生のことでした。当時私は先生の授業  
を受けていませんでしたから、みんなが「素敵」とあこがれる桜  
井先生ってどんな人なんだろうと、心がときめいたものです。私  
は、大好きな橋幸夫や三田明のことを想像しながら、桜井先生  
という人を作り上げていました。

そんなあるとき、先生が寄宿舍の私たちの部屋にやって来た  
のです。橋幸夫でも三田明でもなかったのですが、気品のある、  
優しさに満ちた温和な方でした。先生が笑顔で話す大好きな花  
のこと、鳥のことなどに、私は引き込まれました。とりわけ、「僕

には夢があるんだ。将来、盲人のために、手で触れられる博物館を作りたいんだ」と熱く語っておられたことは忘れられません。なんとと言っても、その頃からの夢をちゃんと実現されたんですから。

2年生になって先生の「生理学」の授業を受けることになりました。先生は大きな声で、懇切丁寧に教えてくださいましたね。できるだけわかりやすくと思ってのことでしょう、先生の博識を惜しげなく散りばめた、様々な例を織り交ぜながらの授業でした。しかし、私の頭はとてもついて行けません。例を出されれば出されるほど、その例が理解できないのですからどうしようもありません。「生理学」はそんなわけで、いつも赤点すれすれでした。でも、どうしたことかある時のテストで85点を取ってしまいました。たった一度だけのこと。自分でも、これではいけないと思いがんばったのですが、先生も哀れな女子生徒を励まされたのかもしれないですね。いやいや、えこひいきなどなさるはずのない先生、そんなわけはありません。あれは私の努力のたまものです。

その後、卒業学年の時、先生に呼ばれ、「教育大の教員養成部を受験してみないか」とお声をかけていただきました。こんな

私がとは思いつつも心が動き、一寸その気になり勉強を始めたのですが、まず目が追いつかない、もちろん頭が追いつかないということを実感し、あえなく断念したのを思い出します。

専攻科に入ってから。先生から「局所解剖学」を学びましたね。私、その授業中のことで忘れられない思い出があるんです。先生が持って来られた頭蓋骨(とうがいこつ)の標本をみんなで触りながらの授業でした。大後頭孔(だいこうとうこう)の学習の際に、それを理解できないでいる同級生がいたので、私は「ほれ、その指ひっかけで、でっけえ穴のことよ」と教えたのです。それを聞いた先生は、「クッククック」と笑いながら、「金矢(かなや)さん、女の子はね『でっけえ穴』なんて言わないんだよ。」とたしなめたのでした。こんなふうに先生は、ただ授業を教えるだけではなく、女性としてのたしなみや人間としての品格というものも教えてくださる方でした。おかげで私が品格ある女性に育ったかどうかは別として。

さて、何とか三療の資格を取って卒業した私は、お誘いがあった母校の実習助手として学校にととどまることとなったのでし

た。先生方には足手まといとなるばかりの助手でしたが、私は先生の同僚のはしくれとさせていただいたのです。

2年後、盲人福祉協会の理事をしているある先生から、「あなたも盲協の理事になるのよ」と言われました。盲協とは何ぞや、理事ってなあにという私でしたが、言われるままに理事になったのでした。桜井先生もやはり理事でした。「きみまる」じゃないですが、「あれから45年。」ですよ。いまだに抜けさせてもらえない私ですよ。

私は、昭和49年に結婚し、金矢(かなや)から三浦になったのですが、子供が生まれ、小学校に入っても、6年間のうち、娘の運動会にはたったの2回しか行っていません。丁度その時期が盲協の総会と毎年重なるんですね。そんなわけで、夫にはよく文句を言われました。夫とて、私の立場がわからないではないが、ことあるごとに「盲協、盲協」といわれれば、文句も言いたいでしょう。

ある時私は耐えかねて、当時の菅野理事長さんに「理事を辞めさせてください」と申し上げました。そうしましたら菅野先生い

わく。「目が見えるようになったらやめてください」。無情のお言葉でした。その後もいろんな人が理事の候補に挙がったのですが、「まだ子供が小さいし」などということで実現しない事が多かったですよね。でもなぜか、私にはそういう同情を言ってくださる方がいなかったんです。家では盲協のことがいざこざの原因にいつもなっていたのですが、外からは見えませんからねえ。

あるとき先生にも相談しましたよね。やめたいって。そしたら先生は「三浦さんは、我々には空気や水みたいな人なんだよ。」とおっしゃいました。水や空気ねえ、あっても気づかないが、ないと困る、そんな意味なんでしょうか。私には自分をそんなふうには思えませんが、何となくその言葉に騙されて、もちろん悪い気はしない私でした。

45年理事をやっていたって、どれだけの貢献ができているのかわかりません。先生はその後理事長の重責を全うされながら、青年時代からの夢だった「手でみる博物館」を、日本はおろか、世界に知らしめる、素晴らしいお仕事をなさいました。私は付いて行くしかないなど、今日まで来てしまったのです。

先生は、仲間や教え子のことには、常にアンテナを高くしていて、いち早く情報をキャッチし、気遣う方でした。

これまで私は何度も失明の危機にさらされ入院しました。先生はその度に病院に足を運んでくださり、励ましてくださいましたね。光を失うということの恐怖からは、未だに抜けきれませんが、先生のお気遣いにどれだけ勇気をいただいたことか知りません。私は信仰を持ちませんが、先生の深い信仰の心が、私に元気を与えてくださったのでしょうか。

(中略)

先生、ほんとにここで筆をおくことにしますね。ところで、私はもう少しこの世を楽しんでから行きますので、決して呼んでくださいな。どうか、愛する奥様、ご家族を見守ってあげてくださいね。失礼しました。

桜井政太郎先生へ

平成28年6月19日

全国障害者スポーツ大会 SAGA2024に向けて

## 岩手県グランドソフトボールチーム

監督 伊藤 武

こんにちは。今年から岩手県グランドソフトボールチームの監督となりました伊藤武です。

私達、岩手チームは5月26日(日)に盛岡の視覚支援学校グラウンドで開催された北海道・東北地区予選岩手大会に出場しました。そこで、福島県に0対4で勝利し、10月に開催される全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」に出場することが決まりました。コロナ禍では大会が開催されませんでしたし、昨年の福島予選はオープン参加でしたので、全国大会への出場は福井大会以来6年ぶりとなります。コロナ禍を乗り越え予選に参加し試合で勝利できたのは、チームのメンバーや応援していただいた多くの関係者のおかげです。本当にありがとうございました。

私は20年以上チームに所属し全国大会にも何度か行きました。グランドソフトボールをしていなかったら全国各地に行くことはなかったと思います。これまでの大会での体験は貴重な思い出です。佐賀では全国の強豪チームとどんな試合ができるか、どんな貴重な体験ができるか本当に楽しみです。

そのためにも今後の練習では予選での反省を活かしチーム強化に努めていきたいです。岩手は守備からリズムを作り攻撃につなげていくチームだと私は思います。今回の予選では守備は好プレーに助けられ無失点に抑えることができました。ただ打線は今一つで福島のリズムが崩れたおかげで勝利できた厳しい試合だった印象です。まずは守備の連携確認とどうしたら効率良く得点できるか、チームのメンバーと相談してその課題を解決していくつもりです。

最後に。まだまだ私は監督として未熟ですが、先輩方から受け継いだこの岩手県チームを守り、少しでも良いチームにできるよう努めてまいります。最近是全国大会の試合の動画もインターネットで公開されています。興味のある方は検索してみてください。今後ともチームへのご支援よろしく申し上げます。

第77回全国視覚障害者福祉大会(熊本  
大会)に参加して

一関支部 千葉 謙一

6月1日(土)にいわて花巻空港から名古屋小牧空港経由で熊本空港に降り立ちリムジンバスで熊本市内に移動しました。ここで簡単に熊本市を紹介しますと人口は約74万人で県の象徴でもある加藤清正が築城した熊本城、そして今では国内では珍しい路面電車が走っております。また、近年注目されている半導体の大型工場が誘致されており九州のシリコンアイランドとも呼ばれております。

平成28年に発生した熊本地震そして令和2年の豪雨災害を乗り越え復興したここ熊本市において第77回全国視覚障害者福祉大会(熊本大会)が6月2日(日)から6月3日(月)に開催されました。

私は1日目のバリアフリー分科会に出席しましたので簡単ではありますが報告いたします。大会スローガンの一つでもある「求めよう、駅無人化における視覚障害者の安全安心」。提出議題で特に駅無人化に対し、視覚障害者が単独で移動するための議案が多かったように思われました。今後は人口減少に伴い特に地方では無人化がさらに進行するのではないのでしょうか。

2日目は大会式典が行われ主催地を代表して村上会長のユ

一モアのある歓迎のあいさつがありました。また、令和6年度日視連顕彰、青い鳥賞を本県から金野守理事が受賞しました。おめでとうございます。

今回の大会には日視連加盟団体会員、大会関係者約500人余りの参加でした。岩手からは及川理事長をはじめ7名が参加しました。

今回の旅行で印象に残ったことを紹介します。

一つ目は熊本県の郷土料理の馬刺し・からし蓮根・あか牛など、お酒はなんといっても焼酎でしょう。料理とお酒を十分にいただき、わきあいあいと楽しく過ごすことができ、大変良き思い出を作ることができました。

二つ目は観光地である「鍋ヶ滝(なべがたき)」を紹介します。落差約10メートル、幅約20メートルの滝で、麒麟生茶のCMのロケ地にもなった人気スポットです。阿蘇のカルデラをつくった約9万年前の巨大噴火でできたとされ、溶岩が作る山の段差からカーテンのように幅広く水が流れ落ちるさまがとても優雅。川のほとりや、ときには滝の裏に入って流れを間近に見ることができます(資料より)。この滝は大量の水が勢いよく滝つぼに

流れ落ちており水しぶきがからだにふりかかり気持ちがよく、まさに圧巻でした。この滝の見どころはなんといっても滝の裏手にまわることができ、間近に体感することができました。

最後になりますが、移動の際に常に適切な声かけをしていただき、安全に安心して移動することができ無事に帰宅することができました。この紙面をお借りして成田理事そして館下さんには感謝申し上げます。ありがとうございました。

## お札が変わります

理事 成田 優子

令和6年7月3日から新紙幣が発行されます。

新紙幣に変わるのは、一万円札、五千円札、千円札の3種類です。

新一万円札の表面は渋沢栄一。裏面には「赤レンガ駅舎」として親しまれた東京駅(丸ノ内駅舎)が描かれています。

新五千円札の表面は津田梅子。裏面には古事記や万葉集にも登場し、古くから親しまれている藤の花が描かれています。

新千円札の表面は北里柴三郎。裏面には江戸時代の浮世絵師・葛飾北斎の代表作である「富嶽三十六景(神奈川沖浪裏)」が描かれています。

紙幣の大きさは3種類とも現在発行されているものと同じ大きさです。

今回発行される新紙幣では「ユニバーサルデザイン」を推進していることも特徴です。

漢数字に代わり触るとざらざらしているアラビア数字による額面表示となり、数字の大きさも大型化しています。紙幣の色は一万円札が茶系、五千円札が紫系、千円札は青系となります。

そして、視覚障害者にとって重要な識別マークの形と配置も変更となっています。

現在のお札は、一万円はかぎ型、五千円札は八角形、千円札は横棒ですが、新紙幣は触るとざらざらしている11本の斜線に統一となり、お札毎に配置を変えることでお札を識別しやすくしたと発表されていますが、これは実際のお札を触って確かめてみないとわかりません。

また、つるつるした手触りのホログラムは見る角度で模様が

変わって見える最新のもので、紙幣での使用は世界で初めてということでした。

私は韓国とイタリアに行ったことがあるのですが、ウォン札もユーロ札もとてもカラフルで額面の数字も大きくて見やすかったです。日本のように識別マークはありませんでしたが、とくにユーロ札は金額が大きくなる毎にあきらかに紙幣の大きさも大きくなるのでわかりやすかったです。

すでに利用している方もいらっしゃると思いますが、お札識別アプリの「言う吉くん(いうきちくん)」や「キャッシュリーダー」などを使えば、お札にスマホのカメラをかざすと券種を識別して音声とスマホの画面に大きな文字で金額をお知らせしてくれます。

ところで最近ほとんど見かけなくなった二千円札、みなさんのお手元にはありますか？

福祉協会協力金等ご芳名(敬称略。入金順)

令和6年2月～5月までの協力者です。

### [協力金]

チャリティバザール協会	72,587円
岩手点訳奉仕会あい・あい	50,000円

### [能登半島地震義援金]

大船渡支部	11,100円
奥州支部	33,300円
北上支部	10,000円
一関支部	22,500円
盛岡支部	20,000円
二戸支部	20,000円

義援金合計116,900円は6月14日に支援窓口の日視連の指定口座に振り込みました。

心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

### 編集後記

今年度初めてとなる会報「桐の花」第101号をお届けします。4月下旬に協会の理事や女性部長を長く勤められた三浦ツ

エさんの訃報が届き、多くの会葬者とともにツエさんの火葬に参列しました。寄せられた追悼文とツエさんが寄稿した文章を掲載しました。在りし日の姿や声を回想ください。

8月初めに盛岡市総合福祉センターを会場として、「岩手県視覚障害者福祉大会、盛岡盲人ホーム・岩手マッサージセンター開所60周年記念式典」が開催されます。次号では、その様子などを掲載できると思います。

厳しい夏も予想されております。熱中症対策や水分補給で、乗り越えられるよう、ご留意のうえお過ごしください。

(編集委員:横澤 忠・高橋 弘・及川 清隆・中田 一洋)

※ 音声デジ版の録音は盛内優子さんに担当していただいているものです。